第48回講演大會工場見学記

日本プリント株式会社（第1班　昭 29-10-18）

当社の工場では人絹・スフ・化繊等各種織布の捺染が行われている．圧延機に稍々似た機械のロールによつて連続的に着色される機械捺染よりも，細長い台の上に張り付けられた白布の上に，所要の模様を切り抜いた和紙を張つた木枠を置き乍ら1色づゝ着色して行き，この作業を繰り返して7色にも及ぶ様な美麗な模様を作つて行く手捺染の方が吾々部外者には興味深かつた．

株式会社喜多喜鋳造所（第1班　昭 29-10-18）

当所の製品は銑鋳物の風呂釜・大鍋・及び再生銑である．既に30年以上も前に熱風炉を創案して爾来，成功裡にその操業を続けておられる社長の創意と努力には見学者一同心から敬意を表した．この炉で古くから鋳物用再生銑を熔製して発売され，喜多喜銑の名で広く各地の鋳物屋に愛用されているとの事であり，現在ではダライ粉，低級屑鋼，銑鉄流れ等平均1t当り数千円の安価な原料を使用して居られるとのお話であつた．

呉羽紡績株式会社庄川工場（第1班　昭29-10-18）

高野工場長より工場概要についての御説明があつた後同氏の御案内で原綿より綿糸，綿布の製造並びに精練漂白，染色加工までの一貫作業を見学した．整然と配置された各種の紡織機が美しい白色の流れを送り乍ら活動している状況は見事であつたが，之等国産の新鋭高能率の機械のみならず，日本ではまだその数が少いという米国製の精巧な機械活動は始めて見る吾々の目を見はらせた又紡績織布両工場は吾国の工場建築様式で始めてという平屋根無窓工場で照明は全部螢光灯によつており，温度及び湿度の調整が完全且容易に行われていることは特筆に値する．

高岡銅器株式会社（第1班　昭 29-10-18）

社長の御案内で仏具・燭台・花瓶及び銅像の製作を見学した．明治2年創業の古い歴史を誇る当社及びその他を併せ，当高岡市では国内の仏具・燭台の需要の殆んど全部を満しているとの事である．丁度折よく・1丈8尺に及ぶ大仏座像の頭部の原型を製作中であつたので，人物の胸・立像等の製作と共に興味深く見学した．

中越可鍛株式会社（第1班　昭 29-10-18）

高橋社長より同社創立前後の経緯及び同社の現況，製品等に関する御説明を受けた後，同氏並びに工場幹部の御案内で工場を見学した．同社の製品はその90%が黒心可鍛鋳鉄製の鉄管継手で，何種類かの小型継手の大量生産が行われている．白銑粗材の黒鉛化焼鈍はバッチ型の炉で行われているが，その中の1基では，製品をポット中に入れず裸のまゝ炉内に装入して焼鈍する方法が採られており，これは吾国の同業界では珍らしいのではないかと思われる．

終りに臨み全コースに亘つて見学者を案内して下さつた天野氏並びに御多忙中にも拘らず行き屈いた御説明，御案内によつて有益な見学をさせて下さつた上記各会社工場の関係者の方々に厚く御礼申し上げる．

（以上5工場　仁科賢治　記）

日本製網高岡工場　（第2班　昭 29-10-18）

第2班見学団は他の諸班とともに午前9時半高岡商工奨励館前に集合，昨夜来の雨のためか出足鈍く，一行16人．3台の自動車に分乗して市内諸工場見学の途に就いた．

初めに日本製網株式会社高岡工場に着く，先づ工場長より詳細な説明を承つた．此の工場では主として無結節の漁網を製造しておる．従来の結節漁網に比し，強さを増し，工程を省き，原料を節約し得る等幾多の特徴を持つており，殊に化学繊維が利用せられるようになつてから漁網の改善が促進せられて，わが国の漁業に少なからず寄与しておるとのことである．次で工場内を見学する．繊細な機械が細い糸を様々な網目に規則正しく巧妙に織り成して行くその工程は，一行に驚異の目を見張らしめる．漁網に組立てる女工さん達の熟練さも亦見事なものであつた．小柴班長一団を代表して挨拶を述べ辞去す．（橋本芳雄　記）

北陸軽金属株式会社工場（第2班　昭 29-10-18）

次で北陸軽金属工場に赴く，事務所楼上で工場長より製品見本を前にして種々説明があつた．本工場は工業規格許可工場であり，製品はアルミニウム圧延板・板器物・瓦・下見板・タイル・鋳物(厨房用品その他機械鋳物)等である．殊にアルミニウム瓦は本社において多年研究の結果試作に成功したもので，1．不燃性であること，2．風や雨に対して安全であること，3．施工の簡易迅速なこと，4．耐久性に富んでいること，5．低廉なこと等の特徴を有するとのことであるが，これが普及されるならば建築界に革新を齎すものと思われる．次で工場を実地に見学する．アルミニウム・インゴットの製造・圧延，板から大小種々の厨房用具に製造される工程，次に鍋・釜等の鋳物工場の製作工程等を一巡した．銀色のアルミニウムが金色のアルマイトに一変する工程は門外者には珍らしかつた．見学1時間余，最後に小柴班長の謝辞があり同工場の見学を終る．（橋本芳雄　記）

鐘淵紡績高岡工場（第2班　昭 29-10-18）

当工場は寿繊維工業の高岡工場として昭和12年発足したものであるが，16年に鐘紡に合併された．戦時中19年より終戦迄名古屋造兵廠に建物を貸与して中断されたが，昭和21年より操業を再開し25年にスフ専紡工場に転換した．敷地66,816坪，工場建坪6,983坪，延建坪16,144坪，従業員900名．操業課長藤田氏，庶務係長中村氏等の案内で工場内を見学．鉄鋼関係と異つて門から入るなり庭園式の美しい感じであるが，工場内部もすつきりと整頓され清潔になつている．先づドラフトの諸設備，混打綿，梳綿それから何度も繰り返えし糸に紡む所謂始紡，再紡，精紡，撚糸と云つた紡績機械が4,000錘も列んで夫々工程を追うて活動しているのは仲々壮観である．今後尚拡張の予定で準備が進んでいるが最近アメリカから回転数の早い機械も輸入設置して能率を増進している．各室とも殆んど自動的に流れて行き，問題の室温や湿度の調節に関する装置が合理的に作られ